

平成 29 年度畜産学教育協議会シンポジウム
社会が求める畜産学教育とは

主 催： 畜産学教育協議会
後 援： (公社)日本畜産学会
日 時： 平成 30 年 3 月 27 日 (火) 10:00～12:00
会 場： 東京大学農学部 3 号館教授会室
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

シンポジウムの開催にあたって

2016年、2017年の2年間にわたり、京都大学大学院農学研究科の廣岡博之会長の下で、畜産学系学生に向けた講義並びに学生実験に関する項目を中心としたアンケートを実施され、多くの大学から送られた回答とシラバスをお纏め頂き、有益な情報をご提供頂きました。

会員校におかれましても、現在、所属されている学生が就職活動を精力的に行っていると思います。畜産学の領域で学んだ学生の進路としては農業・畜産職の公務員、飼料会社、食品製造業、食品流通業、製薬会社、牧場や動物園等の動物飼育現場など多方面にわたっています。我々教員としましても、社会・企業が求める畜産学関連領域の卒業生・修了生を輩出するために、畜産学教育の内容について社会のニーズを考慮する事も必要であると思います。現時点でも会員校の皆様におかれましては、このような観点から教育内容を検討されていると思いますが、社会・企業の方のお話をお伺いする事も、畜産学教育に携わる教員として、今後の検討に有意義であると考えております。

今回の畜産学教育協議会シンポジウムでは、畜産関連分野から求められる卒業生・修了生像について、松本博紀先生（株式会社農林漁業成長産業化支援機構）、廣岡亮介先生（農林水産省）、龍田健先生（兵庫県立農林水産技術総合センター）、及び伊藤博史先生（日本農産工業株式会社）にご依頼し、採用する側の観点から、有益な話をお聞きできるのではないかと期待しております。普段、お聞きできないような事も含め、更にそれを元にして有意義な議論ができればと考えております。多くの先生方のご参加を期待しておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

畜産学教育協議会
会長 上曾山 博
神戸大学大学院農学研究科

平成 29 年度畜産学教育協議会シンポジウム
社会が求める畜産学教育とは

日時：平成 30 年 3 月 27 日(火) 10:00～12:00

会場：東京大学農学部 3 号館教授会室

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

プログラム

シンポジウム開催にあたって 上曾山 博（国立大学法人神戸大学 大学院農学研究科）

1. 「国等の行政機関が求める人材と教育」（10:05～10:30）
松本 博紀（株式会社農林漁業成長産業化支援機構 統括部）
2. 「畜産系技術職員の業務について」（10:30～10:55）
廣岡 亮介（農林水産省 生産局畜産部）
3. 「公設試験研究機関における畜産学教育」（10:55～11:20）
龍田 健（兵庫県立農林水産技術総合センター）
4. 「企業として期待する畜産学教育」（11:20～11:45）
伊藤 博史（日本農産工業株式会社 ヨード卵部）
5. 総会

国等の行政機関が求める人材と教育

松本 博紀

(株式会社農林漁業成長産業化支援機構 統括部)

国等の行政機関が求める人材と教育

(株)農林漁業成長産業化支援機構
(A—FIVE)
統括部 松本 博紀

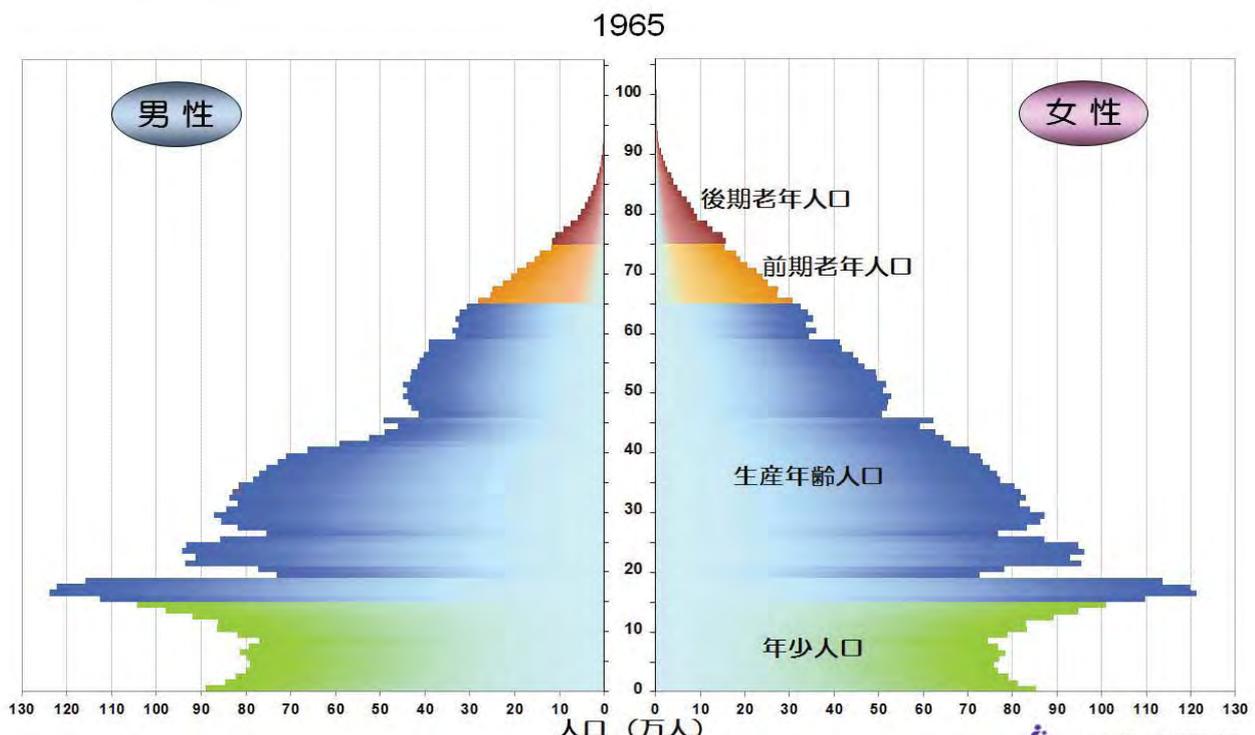
農林水産省等の職員の主な仕事

- 国会対応
- 予算の作成
- 補助事業等の行政業務の執行
- その他

具体的な仕事の例

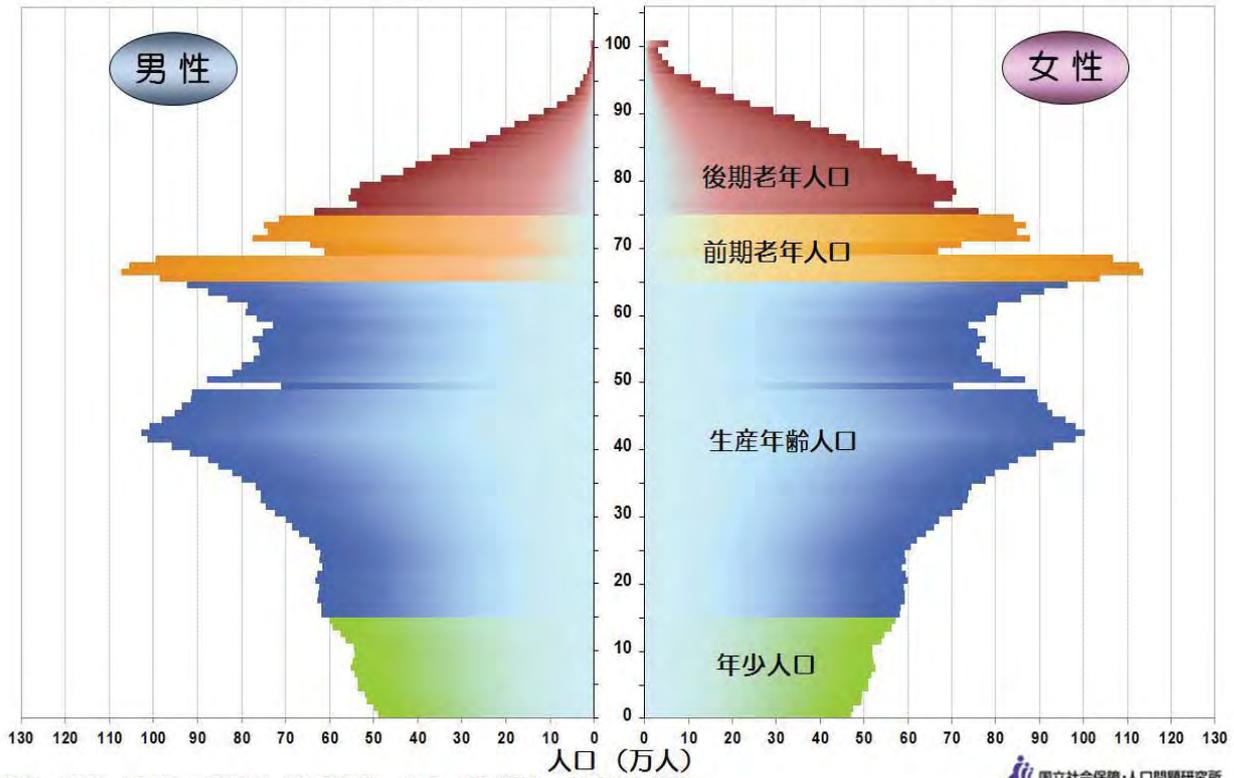
- 日米・日豪 牛肉自由化合意(昭和63年、1988)
- ガット・ウルグアイラウンド合意(平成5年、1993)
- 家畜排せつ物法の施行(平成11年、1999)
- BSEの発生(平成13年、2001)
- 鳥インフルエンザ(京都府)の発生(平成16年、2004)
- 口蹄疫(宮崎県)の発生(平成22年、2010)
- 東日本大震災(平成23年、2011)
- TPP(平成28年、2016 ~)

日本の人口ピラミッドの推移 昭和40年(1965年)



平成27年(2015年)

2015

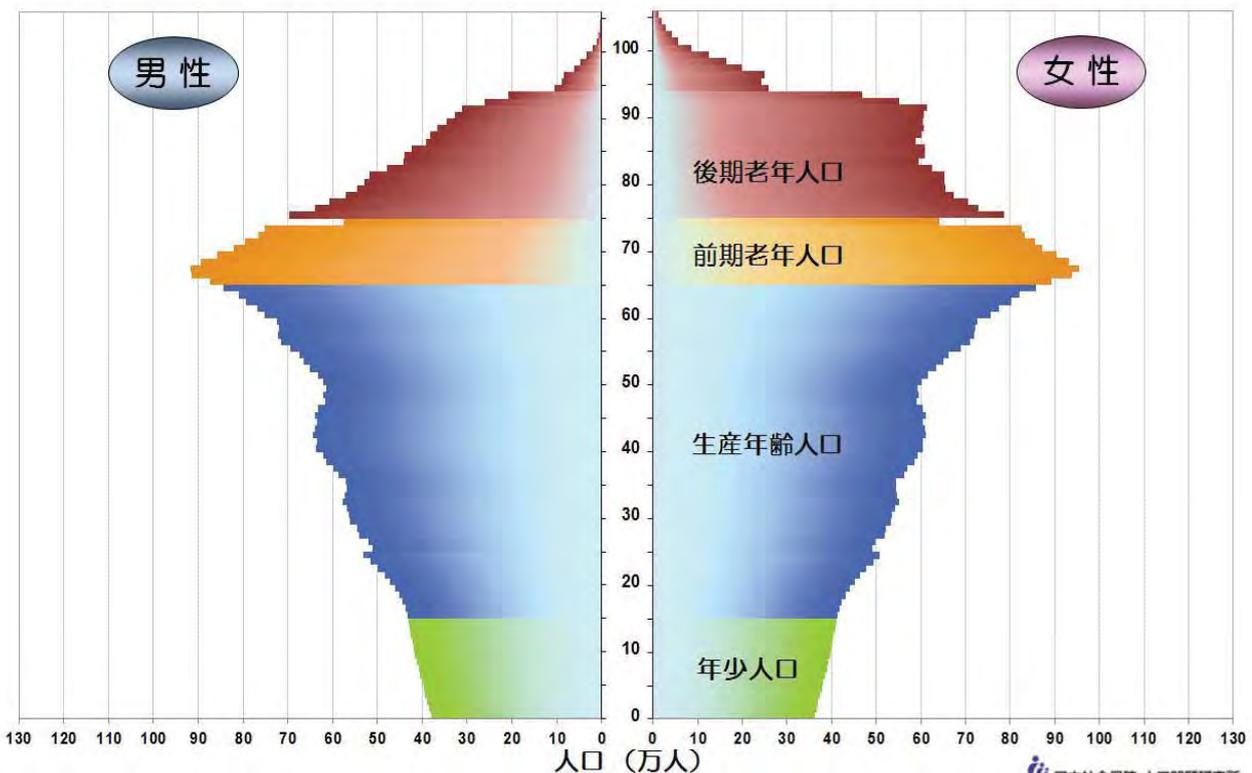


資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口(平成29年推計)」。

国立社会保障・人口問題研究所

平成52年(2040年)

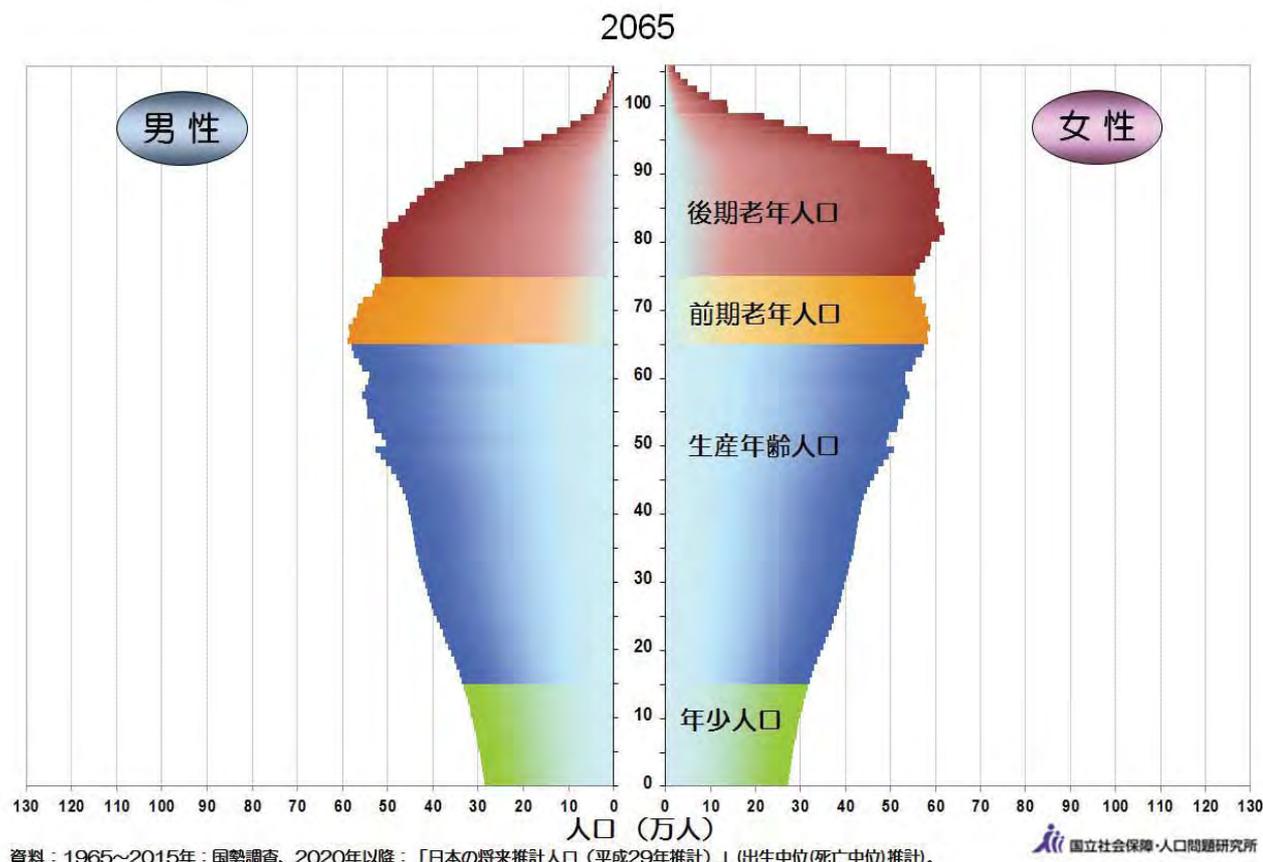
2040



資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)。

国立社会保障・人口問題研究所

平成77年(2065年)



農業就業人口と基幹的農業従事者数の変化

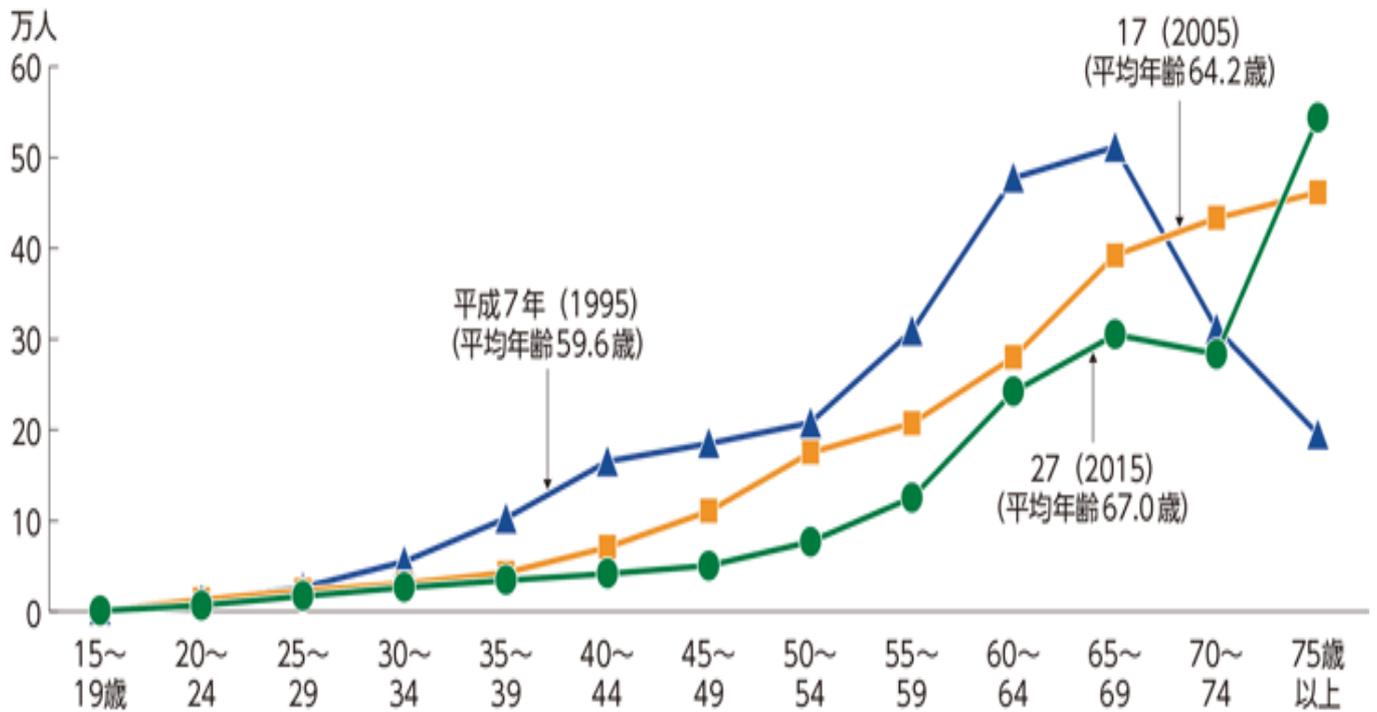
単位：万人、歳

	平成 22年	27年	28年	29年
農業就業人口	260.6	209.7	192.2	181.6
うち女性	130.0	100.9	90.0	84.9
うち65歳以上	160.5	133.1	125.4	120.7
平均年齢	65.8	66.4	66.8	66.7
基幹的農業従事者	205.1	175.4	158.6	150.7
うち女性	90.3	74.9	65.6	61.9
うち65歳以上	125.3	113.2	103.1	100.1
平均年齢	66.1	67.0	66.8	66.6

資料：農林業センサス、農業構造動態調査（農林水産省統計部）

農業従事者数の年齢構成の変化

図表 特2-16 年齢階層別基幹的農業従事者数



資料：農林水産省「農林業センサス」

最近の家畜の飼養戸数の推移

単位：千戸

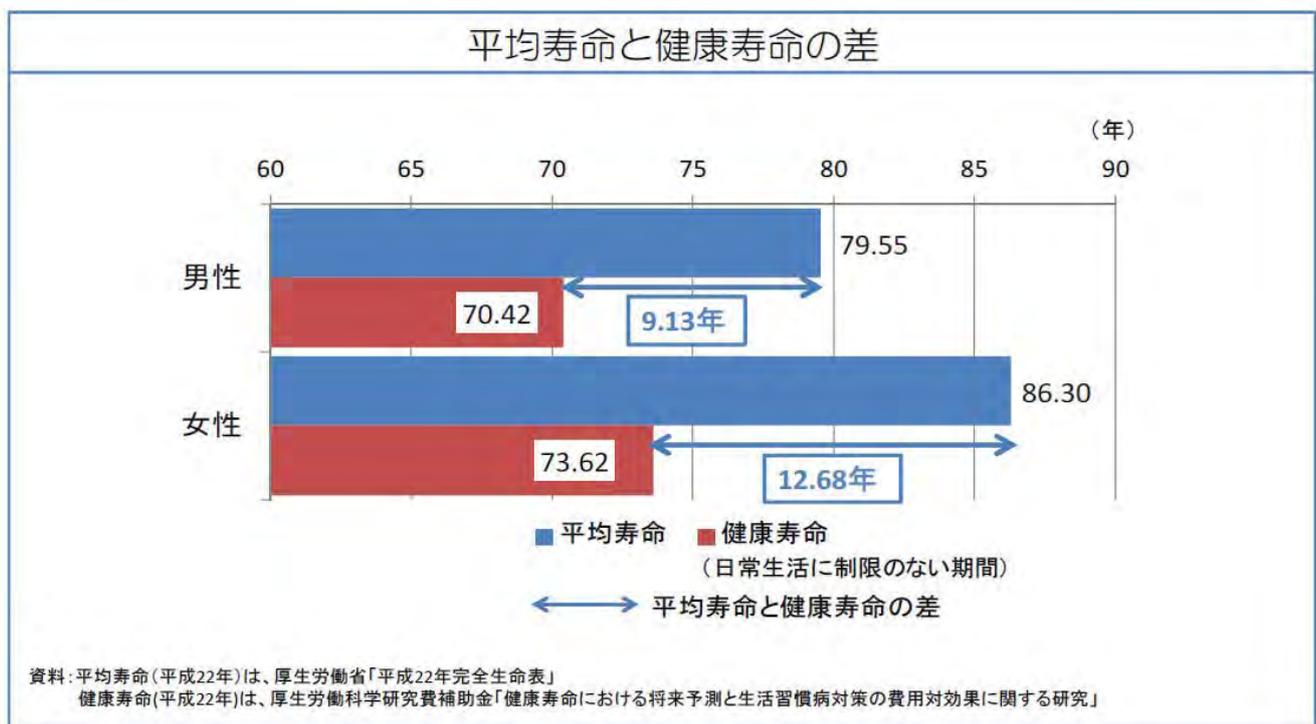
区分／年	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
酪農	224.	23.1	21.9	21.0	20.1	19.4	18.6	17.7	17.0	16.4
肉用牛	80.4	77.3	74.4	69.6	65.2	61.3	57.5	54.4	51.9	50.1
繁殖経営	69.7	66.6	63.9	59.1	56.1	50.0	47.1	47.2	44.3	43.0
肥育経営	16.5	16.8	15.9	15.2	14.3	13.1	11.6	11.6	11.7	11.3
養豚	7.2	6.9	—	66.0	5.8	5.6	5.3	—	4.8	4.7
採卵鶏	3.30	3.11	—	2.93	2.81	2.65	2.56	—	2.44	2.35
ブロイラー	2.45	2.32	—	—	—	2.42	2.38	—	2.36	2.31

資料：農林水産省「畜産統計」、ブロイラーの21年以前は畜産物流通統計、22年、27年は世界農林業センサスのため、養豚、養鶏、ブロイラーでは比較できるデータがない。

大きな社会変化を担える人材

- 国家公務員として
変動の時代を支える夢と気概をもつ人物
- 個人として
ワークライフバランス
身体と心の健康の維持

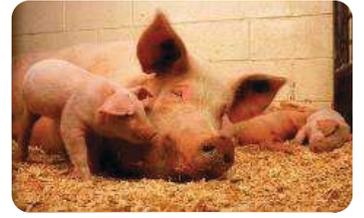
終わりに、
「皆が健康に生きる努力が大切」



畜産系技術職員の業務について

廣岡 亮介

(農林水産省 生産局畜産部)



畜産系技術職員の業務について

平成30年3月
農林水産省

本日の内容

- ◆ 自己紹介
- ◆ 農林水産省の採用について
- ◆ 農林水産省の役割
- ◆ 組織概要と獣医・畜産系技術職員の役割
- ◆ 本省の業務
 - 生産局の役割
 - 消費・安全局の役割
 - 本省の業務
 - 多様な人材の活躍
- ◆ 家畜改良センターの業務
 - 家畜改良センターの役割と組織
 - 家畜改良センターの配置と役割
 - 家畜改良センターの業務
- ◆ 動物検疫所の業務
 - 動物検疫の役割
 - 動物検疫所の組織・配置と指定港
 - 動物検疫所の業務



農林水産省生産局畜産振興課：廣岡亮介

主な経歴

- 平成 5年：神戸大学農学部、同大大学院（家畜繁殖学）
- 平成 5年：農林水産省入省（I種畜産）畜産局食肉鶏卵課
- 平成 8年：家畜改良センター岡崎牧場 種鶏係長
- 平成12年：農林水産省畜産局畜産経営課 総括係長
- 平成15年：農林水産省国際部国際経済課 国際専門官
- 平成17年：在ニュージーランド日本国大使館 一等書記官
- 平成20年：農林水産省生産局食肉鶏卵課 課長補佐
- 平成26年：内閣府食品安全委員会事務局 課長補佐
- 平成29年：農林水産省生産局畜産振興課 首席専門官



農林水産省の採用について

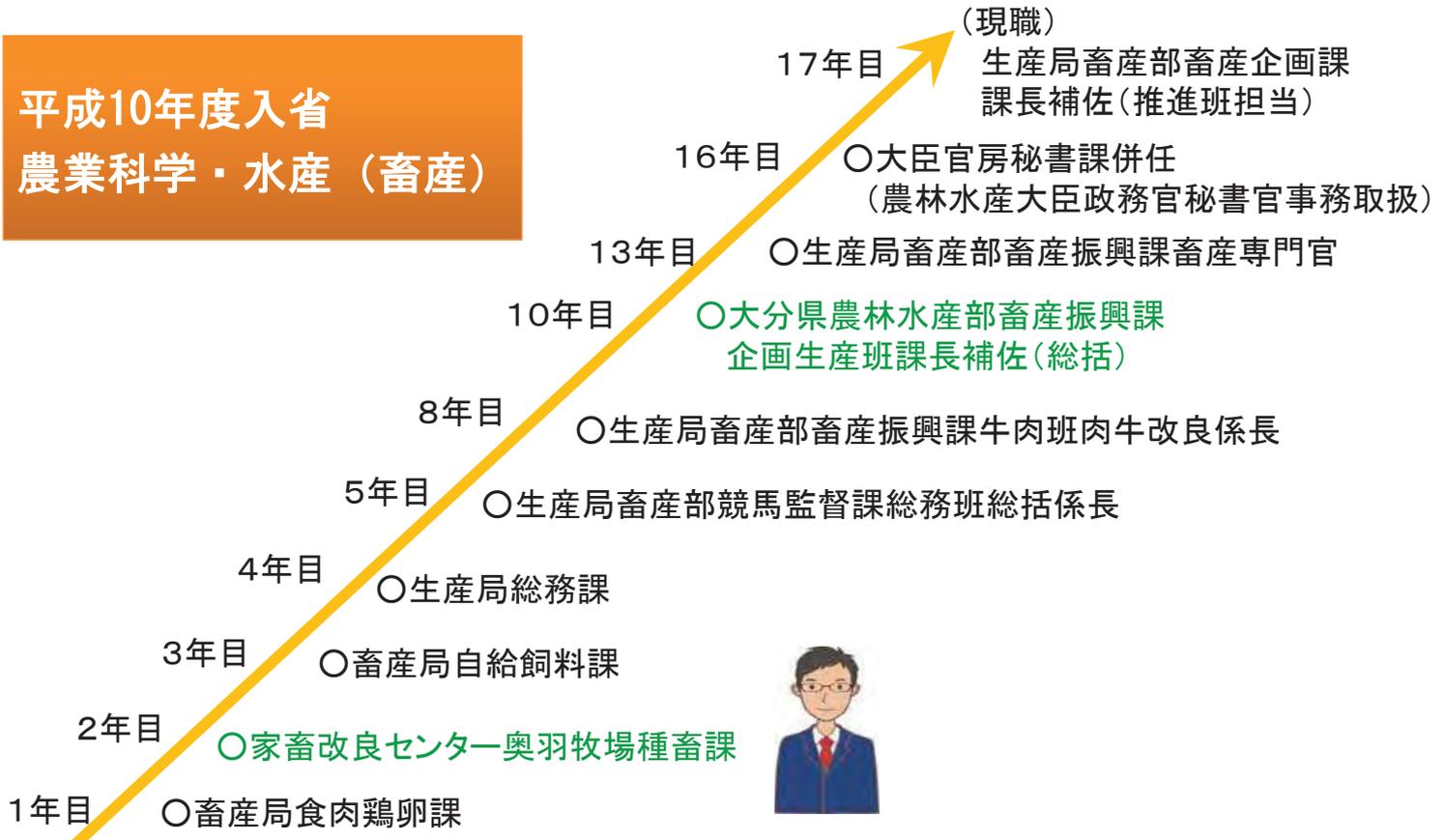
農林水産省で働いている人ってどんな人？

	事務系(事務官)	技術系(技官)
総合職	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 院卒者試験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「行政」 ➢ 「法務」 ◆ 大卒程度試験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「政治・国際」 ➢ 「法律」 ➢ 「経済」 ➢ 「教養」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 院卒者・大卒程度試験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「農業科学・水産」 ➢ 「農業農村工学」 ➢ 「森林・自然環境」 ➢ 「化学・生物・薬学」 ➢ 「工学」 ➢ 「数理科学・物理・地球科学」 ➢ 「人間科学」 ◆ 獣医系技術職(準ずる試験)
一般職	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大卒程度試験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「行政」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大卒程度試験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「農学」、「化学」、「物理」 ➢ 「農業農村工学」、「機械」 ➢ 「電気・電子・情報」 ➢ 「林学」、「土木」、「建築」 ◆ 畜産系技術職(準ずる試験) ◆ 水産系技術職(準ずる試験)

農林水産省の採用について

技術系職員のキャリア具体例（総合職）

平成10年度入省
農業科学・水産（畜産）



農林水産省の採用について

ジェネラリストとスペシャリスト

専攻例	ジェネラリスト	スペシャリスト
作物学・育種学・園芸学など	●	●
植物病理学・昆虫学など		●
農業経済学・農業経営学など	●	●
獣医学・畜産学・動物科学など		●
有機化学・無機化学・薬学など		●
農業機械など	●	●
地球科学、地質学など		●

農林水産省の採用について

皆さんに伝えたいこと・求める人物像

- ◆大学で勉強・研究してきた専門分野を活かして社会貢献したい人。
- ◆農政の企画やグローバルな仕事など、民間企業や地方公共団体では取り組めない課題に挑戦したい人。
- ◆専門分野だけでなく、行政官として様々な業務を経験したい人。
- ◆農林水産業を成長産業に変えたい人。
- ◆「農林水産省」という2万1千人のチームの一員になりたい人。

農林水産省の役割

時代の変化を見通し、農林水産業の発展を支える

わたしたち農林水産省は、
命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受け止め
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。



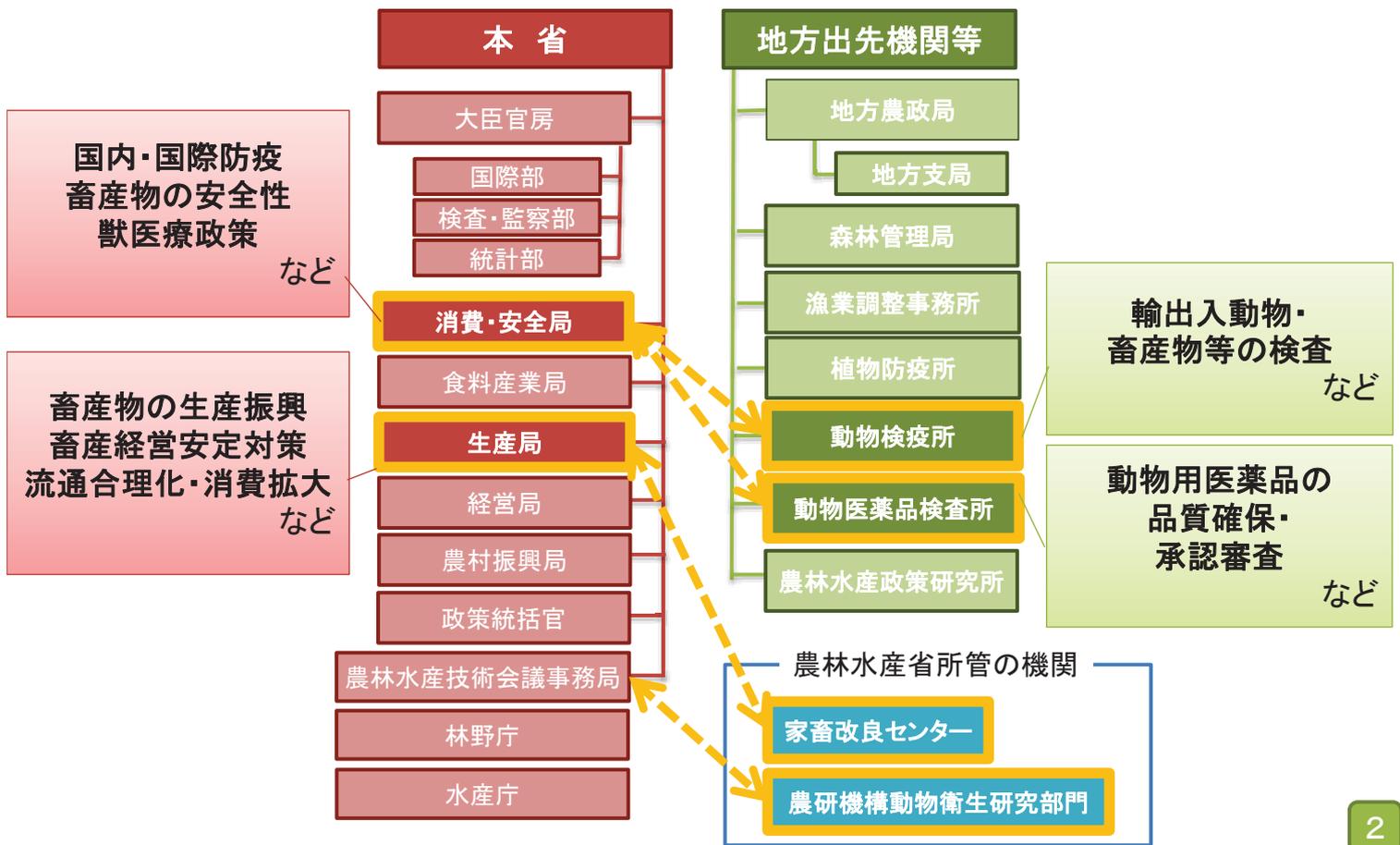
食料の
安定供給

農林水産業の
振興

農林水産省の役割

農山漁村の
活性化

組織概要と獣医・畜産系技術職員の役割



本省

生産局の役割

命をはぐくむ食物が生まれる場所、畜産物の生産現場を支える。

生産振興・経営安定対策

生産現場の生産性向上

- 家畜の能力向上、飼養管理方式の改善
- 畜産経営の規模拡大や機械化の推進
- 自給飼料の生産拡大

経営安定対策による畜産物の安定供給

- 畜種別の赤字補填等の経営安定対策や配合飼料価格安定制度の運用
- 畜産物の需給調整対策(国家貿易など)

搾乳ロボットの導入



耕作放棄地への放牧



畜産物の流通合理化、消費拡大

流通の合理化

- 食肉センター、牛乳処理施設などの流通施設の整備・統合による流通コストの低減

消費拡大対策

- 畜産物の高付加価値化、6次産業化
- 和牛をはじめとする畜産物の輸出拡大

飼料用米を活用した畜産物のブランド化



和牛統一マークによる輸出促進



消費・安全局の役割

国民の「食の安全」を守る。国民の「いのち」を守る。

畜産物の安全性確保

動物用医薬品・飼料の安全性確保

- 使用基準・安全基準の設定、調査・指導

薬剤耐性（AMR）対策

- 国際機関や人分野と連携した薬剤耐性対策

牛トレーサビリティ制度

- 立入検査、勧告、命令等による制度の信頼確保

獣医師及び獣医療に関する政策

- 獣医師国家試験の実施、免許の交付
- 獣医師の動向の把握や産業動物獣医師の確保

トレーサビリティ制度



産業動物獣医師



家畜衛生の向上

国内の伝染性疾病の防疫

- 都道府県の家畜保健衛生所と連携した発生予防、まん延防止の取組
- 発生状況の調査、飼養衛生管理基準の遵守の指導

海外からの疾病の侵入防止

- 空海港での水際検疫の強化
- 近隣諸国・OIE等国际機関との協力
- 各国との輸出入検疫協議

都道府県の防疫演習



国際会議への出席



本省の業務

法律の執行

国会で定められたルールに基づいた、国家的見地からの大きな権限の行使



政策立案

時代の流れを把握、10年後の国の姿を描き、政策手段を用いて実現



予算要求・執行

国の施策を推進するための予算を確保し、適切に執行



国際関係

国際機関や外国政府との情報交換や交渉によるルールメイキング



多様な人材の活躍

多様な行政官の育成

農村研修



【対象者】

入省2年目の本省在籍中の職員

【概要】

全国各地の農家に職員が派遣され、1ヶ月間泊まり込みで衣食住を共にし、農作業に従事

海外留学制度



【対象者】

入省3年目から8年目の職員(希望者から選抜)

【概要】

人事院の長期在外研究員制度により、語学力が一定以上あり、留学意欲、将来の国際関係業務への従事意欲が高い者から選抜され、海外の大学院の修士課程等へ2年間派遣

家庭と仕事の両立の支援

両立支援制度

- ◆ 産休(約3ヶ月半)、育休(3年)、時短勤務等
- ◆ 育児休暇の取得率は90%以上
- ◆ H29年度、農林水産省内に保育所を設置

職員の声



やりがいのある仕事。働き方を工夫して家族との時間を大切にしています。



周囲の理解と協力もあり、多様な働き方ができる職場です。

時短勤務職員の一日





独立行政法人 家畜改良センター



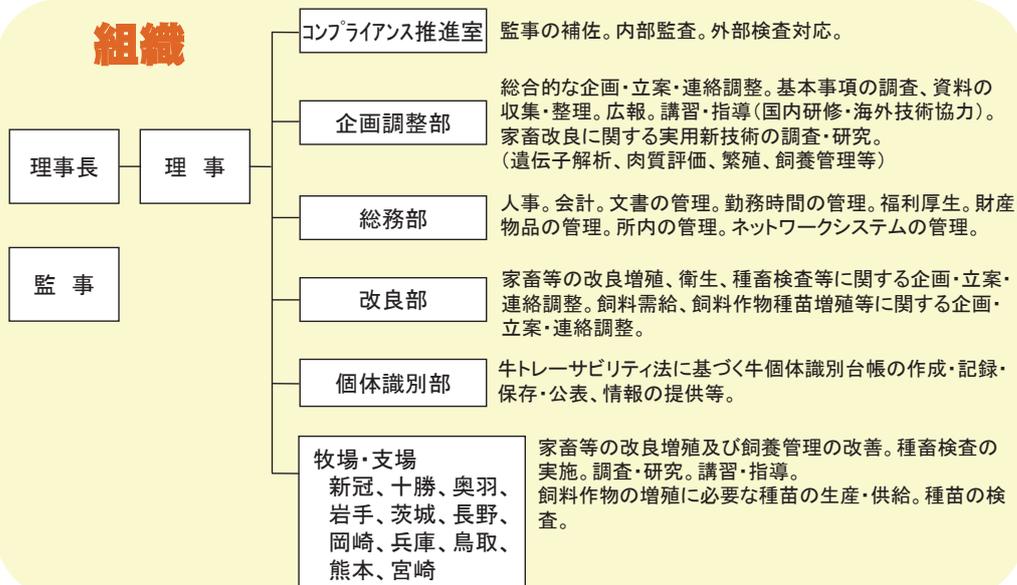
家畜改良センターの役割と組織

家畜改良センターの役割

- 1 家畜の改良増殖及び飼養管理の改善
- 2 飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・供給
- 3 飼料作物の種苗の検査
- 4 調査研究
- 5 講習及び指導
- 6 家畜改良増殖法等に基づく検査
- 7 牛トレーサビリティ等に関する業務
- 8 センターの資源を活用した外部支援



組織



役職員 (29.4.1現在)

役員 7名
常勤3名(うち 現役出向2名)
非常勤4名

職員 737名
うち 一般職員 340人
(技術系 245人)
(事務系 95人)
技術専門職員等 397人

職員の身分は、国家公務員ではありませんが、役職員の給与・休暇等の待遇は国家公務員に準拠しています。
また、農林水産省等の国の行政機関や他の独立行政法人との人事交流も実施しています。

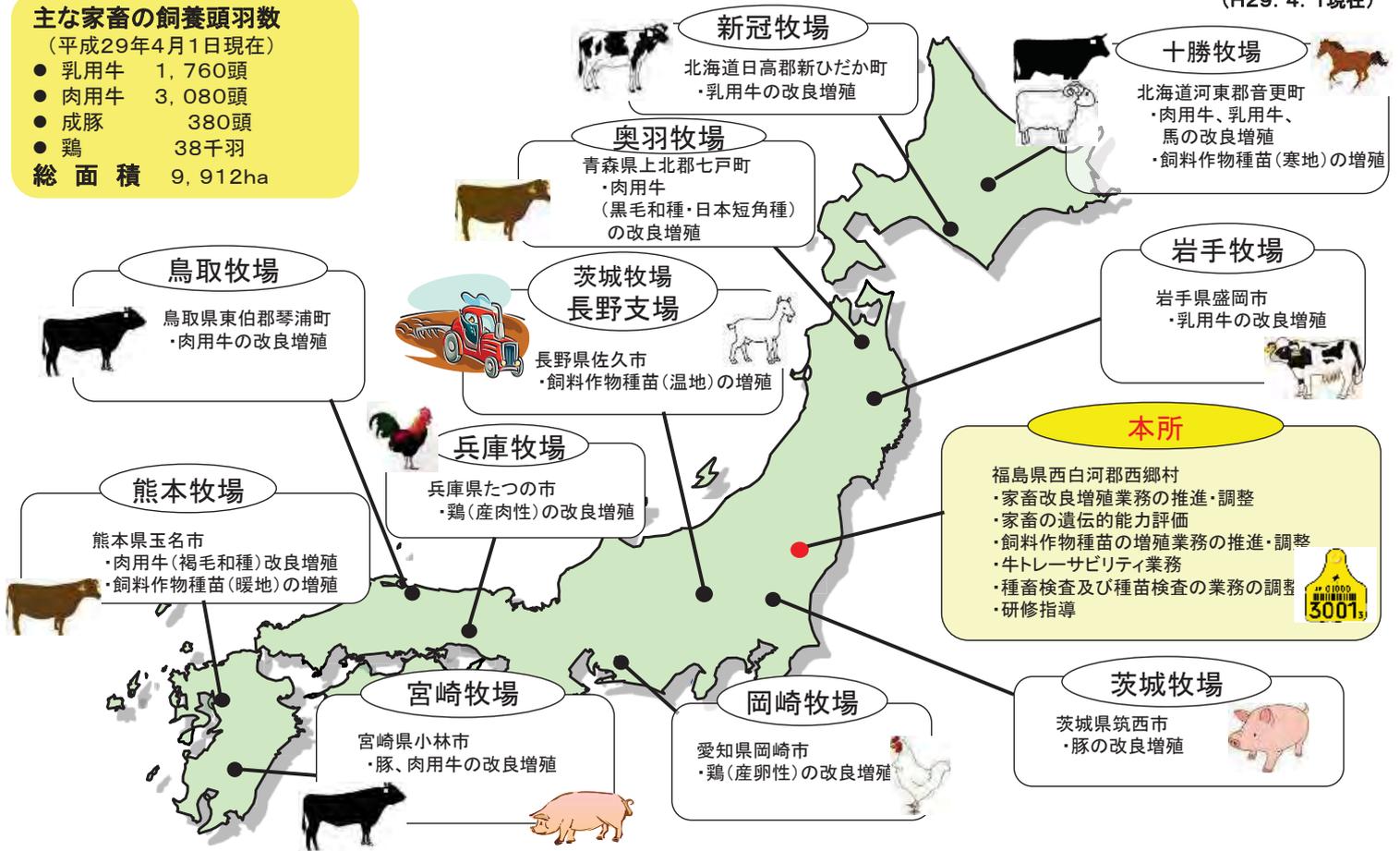
家畜改良センターの配置と役割

(H29. 4. 1現在)

主な家畜の飼養頭羽数

(平成29年4月1日現在)

- 乳用牛 1,760頭
- 肉用牛 3,080頭
- 成豚 380頭
- 鶏 38千羽
- 総面積 9,912ha



家畜改良センターの業務

畜産系

- **家畜等の改良増殖・種畜検査・飼料作物種苗増殖**等に関する業務や家畜改良に関する**実用新技術の調査・研究**等に関する業務を行っています。
- 例えば、**候補種雄牛の生産**を行っています。優秀な種雄牛の生産には、母牛となる種雌牛も重要ですので、血統や検定成績、ゲノム評価値、個体そのものをよく観察し、**将来の種雄牛候補の母牛の選定**を行います。



獣医系

防疫及び検査業務

- 近年、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等伝染性疾病への家畜防疫体制の強化が進められている中、高い衛生レベルが求められる種畜・種きんを疾病から守り、我が国の育種改良を着実に進展させるため、**徹底した防疫措置**を行うための**マネジメント**(衛生管理区域の設定・衛生状態の確保、洗浄消毒、病原体の侵入防止、ワクチネーション、職員への周知徹底等)の企画・立案・指導を行っています。
- また、**定期的な衛生検査**を独自に実施するとともに、農研機構動物衛生研究部門の協力を得ながら確実なモニタリングを行っています。



公設試験研究機関における畜産学教育

龍田 健

(兵庫県立農林水産技術総合センター)

公設試験研究機関における畜産学教育

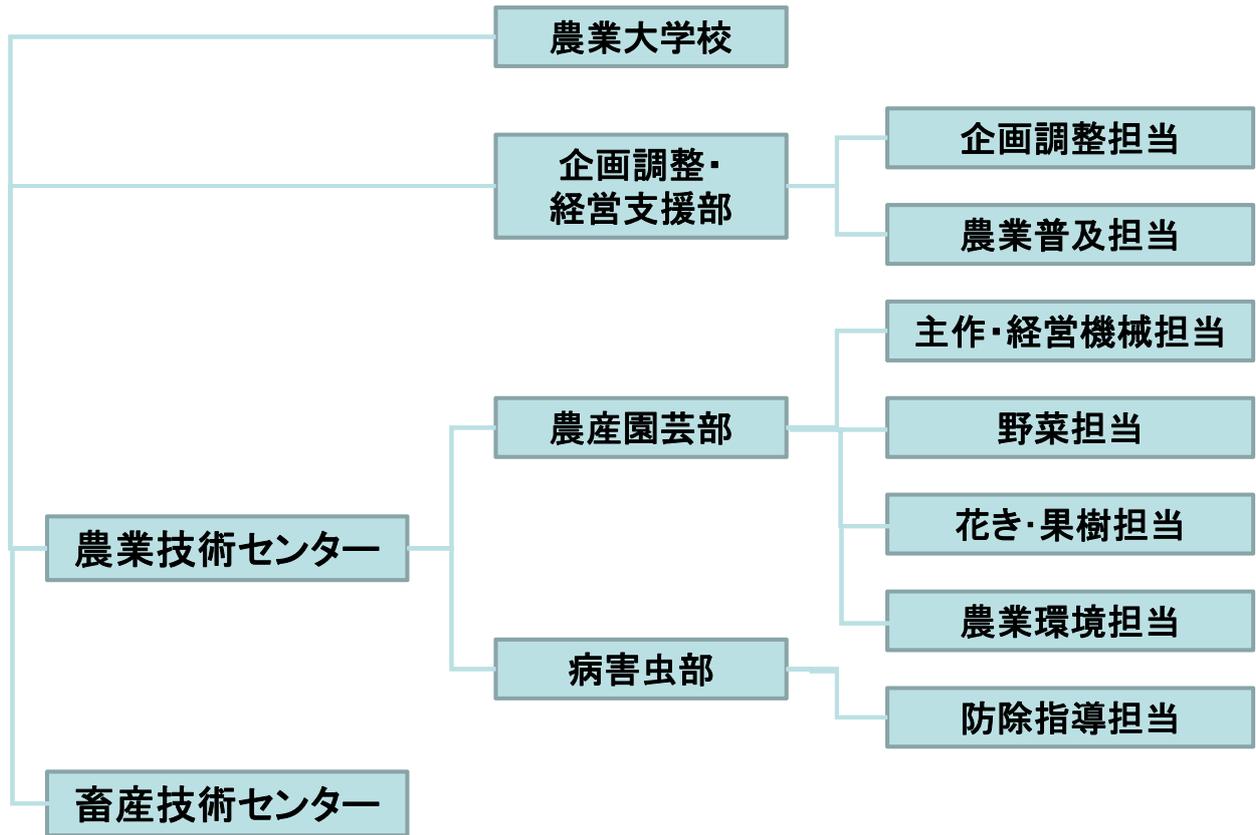


兵庫県立農林水産技術総合センター畜産技術センター
 主席研究員 龍田 健

兵庫県立農林水産技術総合センター



県立農林水産技術総合センター(加西地区)の組織図



畜産技術センター

家畜部

但馬牛、鶏の改良増殖と試験研究を一体的に展開しています。

改良増殖

- 但馬牛種雄牛を飼養、人工授精用凍結精液を作成、保管、配布
- 但馬牛の次世代種雄牛を飼養、間接検定を実施する等、育種改良を推進



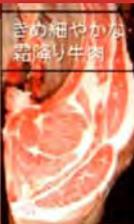
但馬牛種雄牛

- ひょうご味どりの種卵、素ひなを養鶏農家等に配布供給

但馬牛



但馬牛種雄牛



きの細やかな結着り牛肉

- 古くから但馬地域で飼養され、良牛として評価
- 優れた肉質を持ち、基準を満たした枝肉は、世界的に評価が高い神戸ビーフとなる
- 遺伝力が強く、全国の黒毛和牛の改良に活用
- 育種改良は兵庫県内で実施（閉鎖育種）

ひょうご味どり

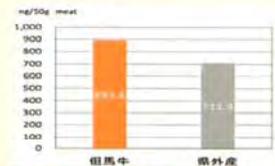


ひょうご味どり

- 昭和63年から当センターが開発した肉用鶏
- 種鶏「ひょうご」（薩摩鶏×名古屋種）と劣性白色プリマスロックを交配
- 肉質は歯ごたえとうまみに富む

試験研究

- 但馬牛の牛肉のおいしさの要因を科学的に究明し、改良に活用



Vanillin チョコ・バニラ様の香り

但馬牛は他県産牛肉よりも甘みに影響する香り成分（vanillin）が高濃度に含まれる事が判明

- 但馬牛肥育経営の効率的な飼養管理技術を開発



給与飼料は牛個体毎に摂取量が管理されている

畜産学教育への携わり

- ・兵庫県立農業大学校 非常勤講師
- ・農業高校、高校農業科 技術指導等
- ・研修生（獣医学部生、普及員、JA職員等）

H.5～

- ・神戸大学大学院農学研究科 客員教員

H.25～

5

兵庫県立農業大学校

農業大学校（専修学校）

次代の農業を担う、感性豊かな人材を育成しています。

養成部門

時代に応じた農業経営を行うのに必要な知識・技術・経営管理能力等を修得させ、次代の農業を担い、地域農業の振興等に指導的役割を果たす人材の養成。授業は、実習に重きをおいて構成

入学資格 高等学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む）等で 25 歳未満の者

入学定員 40 名（農産園芸課程及び畜産課程）

修業年限 2年間（全寮制）卒業時には「専門士」の称号を付与

研修部門

これから農業を始めようとする人、経営発展のためにスキルアップをめざす農業者を対象に、農業の技術や経営に関する基礎的な研修や、1年間を通して栽培から販売まで実践的な農業生産を実践する研修を実施

◎新規就農者等育成研修（実践研修）

◎就農チャレンジ研修



農大生の実習



新規就農者等育成研修（実践研修）

講義内容

- **家畜飼養管理 I (養鶏)**
- **家畜飼養管理 II (養豚)**
- **肉用牛 I**
- **畜産環境保全**

7

講 義



講 義 + スライド、ビデオ等



実 習

8



農業高校、高校農業科

県立播磨農業高等学校(加西市)

県立農業高等学校(加古川市)

県立佐用高等学校農業科(佐用町)

- ・地鶏(ひょうご味どり)の種卵・雛の販売
- ・ひょうご味どりの飼育方法の指導
- ・人工授精の指導(先生)
- ・鶏の解体・加工技術の指導(先生)
- ・配合飼料の作成方法の指導
- ・発表会等の指導

11

平成3年、薩摩鶏雄と名古屋種雌の交雑鶏に白色プリマスロック(羽毛色劣性)を交配して「歯ごたえ」と「こく」のある美味しい特産鶏「ひょうご味どり」を開発した。



薩摩鶏 雄



名古屋種 雌



ひょうご味どり



兵庫 雌雄



白色プリマスロック 雌雄
(羽毛色劣性)

地鶏復活プロジェクト

播磨農業高校生と一緒に作る「ひょうご味どり」
復活プロジェクトに関わるメンバー



生徒のまとめ役
上見先生



高校の園増長
森田先生



学舎副担任
中島先生



農林水産技術総合
センター
山田土産研究員



兵庫県農政環境部
山田土産



薩摩鶏×名古屋種×山田錦×熟成

地鶏の最高峰

播州の豊かな自然が育んだ、濃厚な肉質と、熟成による高貴な余韻ある味わい



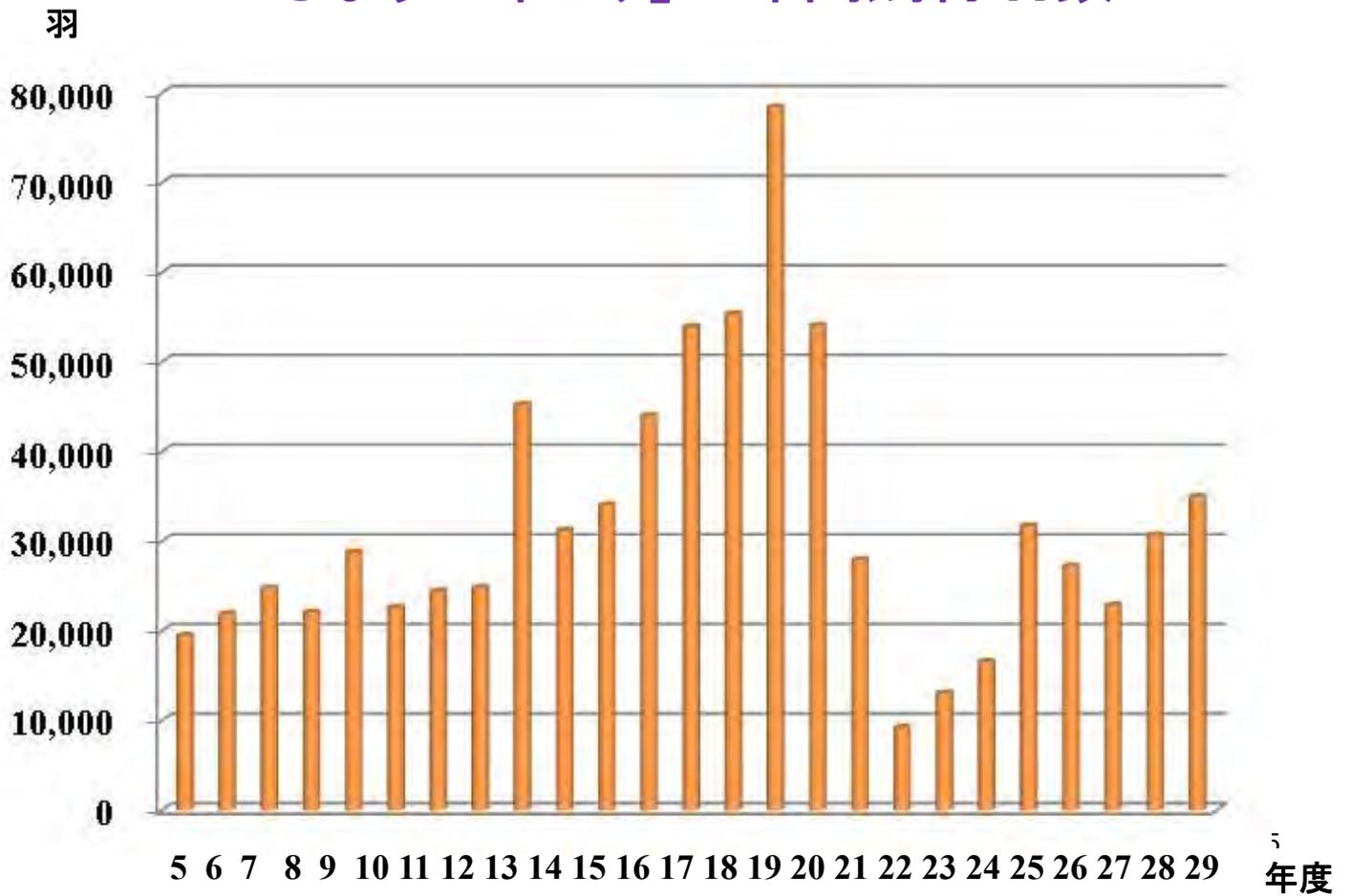
日本三大地鶏の二つ、「薩摩鶏」、「名古屋種」の品種を基に三元交配を行い、播州の豊かな自然と、日本酒の原料米としても知られる「山田錦」を飼料に使用し、味わいのある旨みを引き出した、特産地鶏「ひょうご味どり」。

当店では鶏舎全量買い上げを実現し、各パーツごとに真空急速冷凍を行い、「熟成鶏」として提供できるように仕上げ、最高の味わいを引き出しております。

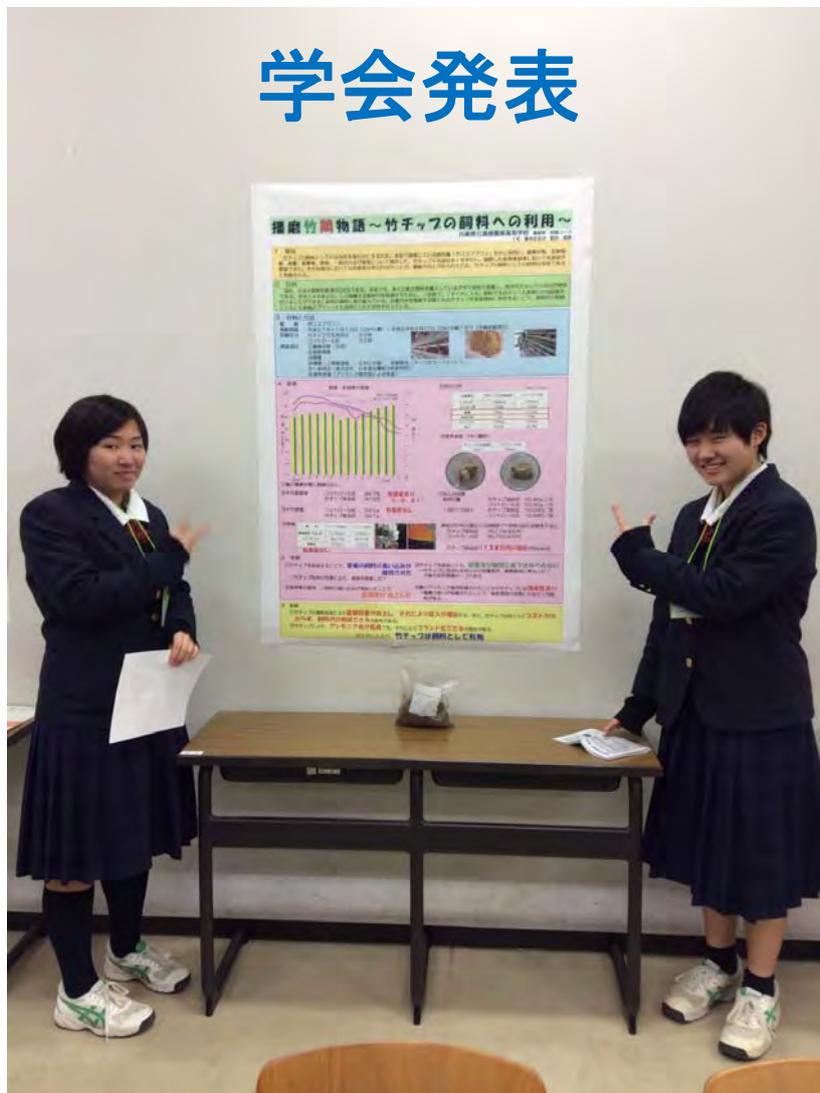
濃厚な肉質とコク、備ごたえをお楽しみください。

HYOGO A-JIDORI

「ひょうご味どり」の年間飼育羽数



学会発表



酒米(山田錦)給与試験

「ひょうご味どり」の給与飼料

トウモロコシと代替

25、50、75、100%

17

ヒマワリ地鶏の開発

「ひょうご味どり」にヒマワリ油粕を給与

18

さよう 佐用のひまわりの種で育った ヒマワリ地鶏



肉味が良い。
コク・締まりがある。
適度な歯ごたえ。
キメが細かい。



さよう町のプレミアム地鶏!



さよう 佐用のひまわりの種で育った ヒマワリ地鶏

生産者協力：兵庫県立佐用高等学校



生産者：竹内さん

JIS規格
地鶏条件

1. 素びなが在来種由来の血液百分率が50%以上のもの

さようヒマワリ地鶏 素びな：「ひようご味どり」
(兵庫県立中央農業技術センター生まれ・兵庫県産)

JIS規格
地鶏条件

2. 飼育が28日齢以降、平飼育していること

さようヒマワリ地鶏 飼育方法：「ひな」の時より平飼い

JIS規格
地鶏条件

3. ふ化後80日以上飼育していること

さようヒマワリ地鶏 飼育期間：概ね100日佐用町内で飼育

JIS規格
地鶏条件

4. 1㎡あたり10羽以下で飼育していること

さようヒマワリ地鶏 飼育密度：概ね1㎡あたり7羽

さようヒマワリ地鶏
日本産出向けセンター
認定地鶏

5. モモ肉の場合14%、ムネ肉の場合25%、無骨に対して成分増加がありました。

さようヒマワリ地鶏 ヒマワリの飼料供与による、ビタミンE成分増加

好評発売中!!



1パック
さようヒマワリ地鶏 1羽分 500円+税
手羽先x2 手羽元x2

各店舗にて販売中 (裏面参照)

※生産量に限りがございますので品切れの際はご了承ください

発行者 佐用町商工会

〒679-5301 兵庫県佐用郡佐用町佐用 3043-1
TEL (0790) 82-2218 FAX (0790) 82-3386

兵庫県西播磨県民局「賑わい創出支援事業補助金」により制作

研修生



JAみのり



播州百日どり





神戸大学

資源生命科学専攻

食料生産フィールド科学(連携講座)

- ・有用生物利用学
有用生物資源開発論
- ・特別連携講義

講義内容

- ・基礎
- ・品種等
- ・鶏肉
- ・鶏卵
- ・料理

23

求められている畜産学教育とは

24

企業として期待する畜産学教育

伊藤 博史

(株式会社日本農産工 ヨード卵部)

NOSAN

平成29年度
畜産学教育協議会
シンポジウム

～企業として期待する
畜産学教育～

日本農産工業(株)
伊藤博史

食といのちの未来をひらく



食といのちの未来をひらく

NOSAN

today's topics

1. 日本農産工業(NOSAN)のご紹介
2. 最近の採用実績
3. 社内研修制度
4. 畜産学出身社員の入社後の活躍状況
5. 企業として期待する社員像・大学教育



日本農産工業の会社情報

創業：1931年8月

人数：ノーサングループ929名 単体：440名

2009年より三菱商事(株)完全子会社

資本金：74億円 連結売上高：1,329億円（2017年3月期）

本社：横浜市西区2-2-1 横浜ランドマークタワー46階

平均年齢：38.6歳 平均勤続年数：14.4歳（2017年3月末日）

畜産飼料事業

- 畜産用配合飼料

- ペットフード関連
- 馬用飼料
- 動物園用飼料

ライフテック事業

水産飼料事業

- 水産用配合飼料

- ヨード卵
- ヨード卵加工食品
- その他鶏卵

食品事業

日本農産工業

4つの
フィールド



ヨード卵

- 1976年に発売を開始した、**日本初のブランド卵**
- 全国**47**都道府県で販売されている
- ヨード卵のコクは、他社ブランド卵に比べて当社比**3**倍以上





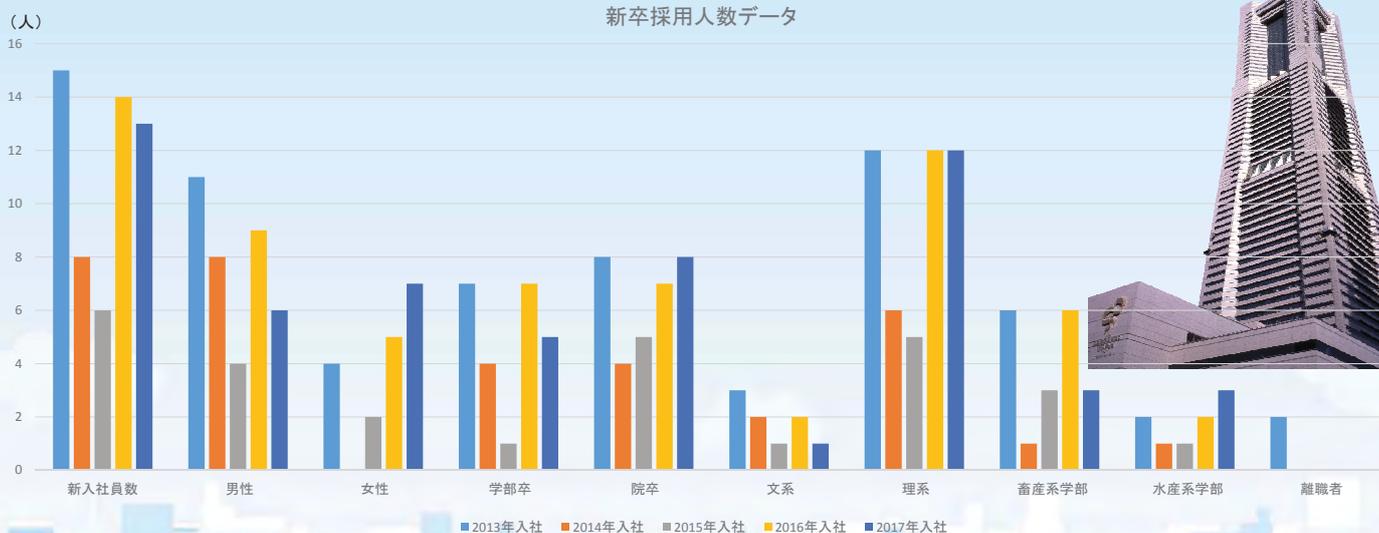
①馬用飼料・動物園向け飼料

馬産地(北海道)、JRA、乗馬クラブ、動物園などへ販売

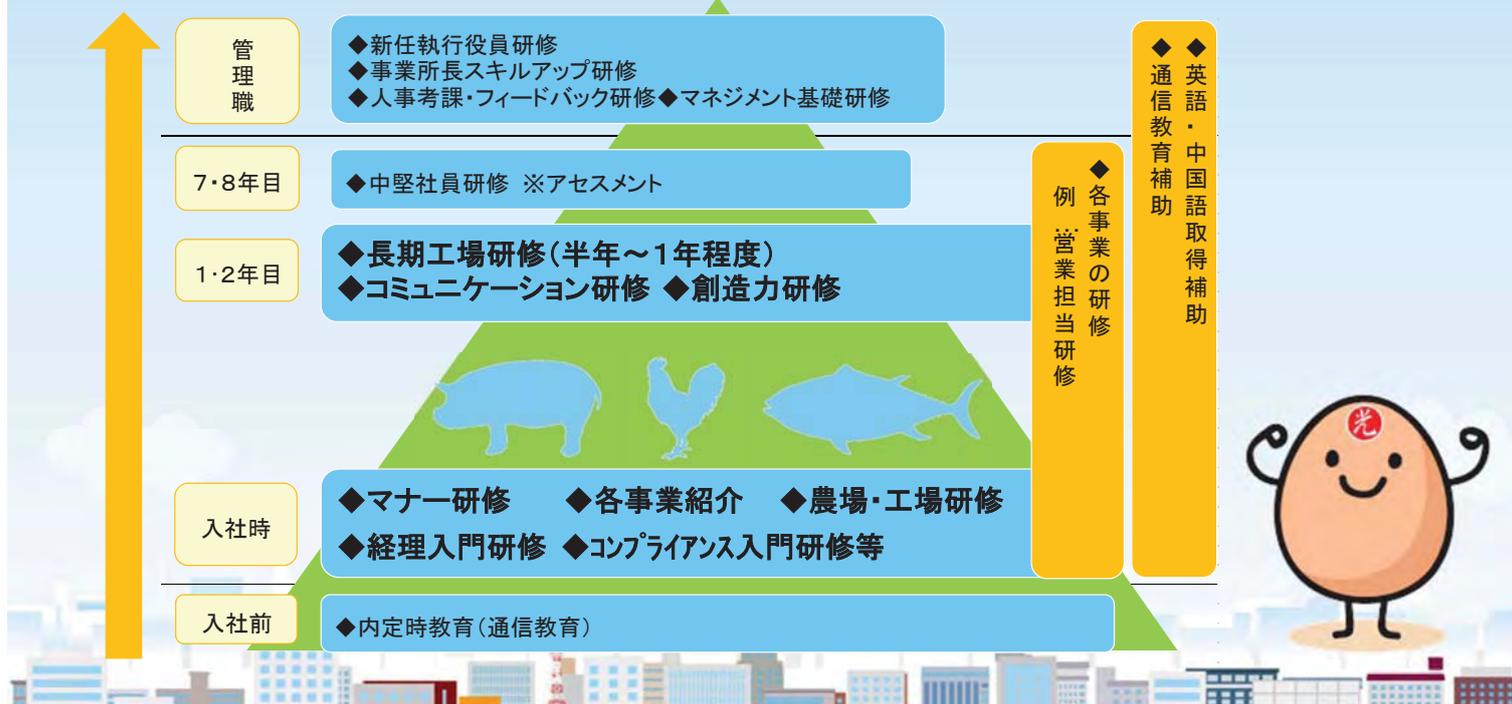
②動物病院向け療法食・プレミアムペットフード



2. 最近の採用実績



3. 社内研修制度



4. 畜産学出身社員の入社後の活躍状況

畜産学出身社員の主な配属例

- ◆ **配合飼料の研究開発** ⇒ 畜産技術センター
ライフテック部研究開発センター
- ◆ **配合飼料・鶏卵の営業** ⇒ 各支店・各営業所
ヨード卵部・ライフテック部
- ◆ **品質保証部門** ⇒ 品質保証部 (本社・分析・検査)
- ◆ **本社** ⇒ 畜産飼料部・設計調達部・ヨード卵部
ライフテック部
- ◆ **関係会社** ⇒ 配合飼料販売会社・農場会社・鶏卵会社



畜産学出身社員紹介 - 1

名前 : O.S.
入社年度 : 2014年 (4年目)

◆ 学生時代

出身大学 : 国立A大学 工学部
国立B大学大学院 自然科学研究科

学生時代の研究内容 : 家畜栄養に関する研究
(飼料を用いた畜産物の高品質化)

◆ 職歴

2014年4月 入社
2014年6月 志布志工場研修(1年間)
2015年6月 畜産技術センター養鶏G配属

NOSAN

畜産学出身社員紹介 - 2



名前 : K.Y.
入社年度 : 2013年 (5年目)

◆ 学生時代

出身大学 : 国立C大学大学院 生命環境科学研究科
畜産学研究室

学生時代の研究内容 : 家畜栄養と繁殖性能に関する研究

★馬術部に所属

◆ 職歴

2013年 4月 入社
7月~12月 水島工場研修
2014年 1月~ ライフテック部ホースG配属

NOSAN

畜産学出身社員紹介 - 3

- 名前 : I.H.
入社年 : 1988年 (30年目)
- ◆ 学生時代
出身大学 : 国立D大学農学部畜産学科
国立D大学大学院農学研究科畜産学専攻
学生時代の研究内容 : 実験動物の繊維消化性に関する研究
- ◆ 職歴
1988年 中央研究所配属 (実験動物飼料・養鶏飼料開発担当)
2002年 本社マーケティング部 (養鶏飼料担当)
2005年 研究開発センター (畜産飼料開発統括)
2009年 房総ファーム(株)社長
2011年 研究開発センター長
2013年 西日本支店長
2017年 本社コード卵部長

NOSAN

食といのちの未来をひらく

NOSAN

5. 企業として期待する社員像・大学教育

動物（家畜）をこよなく愛する人

1. 期待する一般スキル

- ・コミュニケーションスキル
- ・ディスカッションスキル
- ・物事を自ら思考することができる
- ・自ら思考したことを実際に行動に移すことができる
- ・企画力、発信力、交渉力、説明力、語学力
- ・チームワークを大切にする



動物（家畜）をこよなく愛する人

2. 期待する専門スキル

- ・畜産業に密接した研究テーマの実践 ⇒ 研究職への即戦力
- ・関連情報を効率的に収集する力
- ・収集した関連情報を適確に分析する力
- ・実験計画立案スキル
- ・統計学の知見
- ・経営学の知見



企業として大学側に期待すること

◆ 畜産業への適応性（産業応用性）が高い研究テーマのさらなる推進

- ・畜産業が直面する問題や課題認識に基づく研究
- ・本研究活動を通じた学生への畜産教育
（研究成果が畜産業に及ぼす効果や影響）

◆ 企業と大学（官も含めた産官学）の連携強化

- ・産官学共同研究の推進
- ・企業側の意識改革も必要



畜産学教育協議会規約

昭和 48 年 4 月 6 月決定

昭和 49 年 4 月 5 月一部改正

昭和 51 年 4 月 1 月一部改正

第 1 条 本会は畜産学教育協議会と称する。

第 2 条 本会は事務所を会長所属の大学・学部におく。

第 3 条 本会はわが国の大学における畜産学教育に関する諸問題について協議することを目的とする。

第 4 条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う。

1. 畜産学教育に関する問題の検討
2. 畜産学教育の推進に関する事業
3. その他必要な事業

第 5 条 本会は下記の会員を持って組織する。

1. A 会員 大学の畜産学教育を行う学科
2. B 会員 大学の畜産学教育を行う講座

第 6 条 本会の会費は次のごとく定める。

1. A 会員 年 5,000 円
2. B 会員 年 1,500 円

第 7 条 本会に下記の役員をおく。

1. 会長 1 名
2. 幹事 若干名

第 8 条 会長は会務を総理し、本会を代表する。幹事は庶務、会計などの実務を司る。

第 9 条 会長、幹事の任期は 2 年とし、総会において専任する。但し、再任を妨げない。

第 10 条 総会は毎年 1 回これを開く。ただし、必要によっては臨時にこれを開くことができる。

第 11 条 総会では会務を報告し、重要事項について協議する。

第 12 条 本会に連絡のため委員会を置く。

第 13 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日にはじまり、翌年 3 月 31 日に終わる。

平成 29 年度 畜産学教育協議会シンポジウム

社会が求める畜産学教育とは

平成 30 年 3 月 27 日 発行

発行者：畜産学教育協議会 会長 上曾山博

事務局：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学大学院農学研究科内

印刷：有限会社ニシダ印刷製本

〒590-0965 大阪府堺市堺区南旅籠町東

4-1-1